



障害をもつ幼児の保育(19)

—この子と出会ったとき—

津 守

真 (M)

津 守

房 江 (F)

音に敏感な子ども

音に対する敏感さは外部からは分かりにくい

—長年、理解することが困難だった子どもの話

M Yくんは養護学校に入学した時から、スト

ローを上手に口にくわえて丸い輪を作って投げて

いました。それから、大声を出して自分を叩いたり、大人を叩いたりしました。私はストローの輪のことも、どうしてこんなに上手に口で丸を作れるのか不思議だったし、たいした理由もないのに自分や他人を叩くのも、長い間理解できずに過ご

しました。いまY君は二十代半ばで、私共よりもずっと背も高いのですが、最近になって私はこの人は音に特別に敏感なことによるのではないかと考えるようになりました。

F Y君は、私共の家の造形教室に通ってきました。先月来た時、途中から、大きな声を出して自分を叩きながら帰ってしまいました。

M Y君のお母さんは、数年前から、家の近くで、数人の親たちと一緒に作業所を開いて、毎日そこで仕事をしているので、この日も私はその作業所の様子を尋ねながら隣の部屋でおしゃべりをしていました。

F この日は、元気のいい女性の参加者が綺麗な箱を家から持ってきてそれで何かを作ろうとしていたんです。大きな高い声で高揚したようにしゃべっていて、もう一人の箱の好きな青年と大声で言い合いになっていました。Y君は当事者ではな

いのに、その声を聞いて突然怒り出したんです。
M 私は、その作業所のことに興味があるので、感心して聞いていたので、大きな声は出しませんでしたよ。

F Y君は、隣の部屋でお母さんたちが話するのは以前から嫌いでしたよ。この子の悪口を言っているわけではないのに、なんとなくお母さん同士困った話をするのが、はじめのうち多かったです。この頃はずっと穏やかで付き合やすくなっていました。この日はいろいろなことが重なって、我慢ができなかったのでしょう。

今になって分かってくること

M こんなことがあって、私はあらためて、この人は普通には聞こえない音を聴いているのではないかと気が付きました。

F Y君は片方の耳を押さえて自分の頭を叩いて

いたから、言い争いを聞くのが辛かったのでしょうか。

M そうでしょうね。ことにこの人は特別に音に敏感だったのです。人に何が聞こえているかは他人には分かりにくい。それだから私は長い間、この子のことが分からなかった。

F 子どもの時、ストローで丸い輪を作った時、その輪を滑り台を滑ってくる子どもに向かって投げていましたね。それから、道路で車のくる方に向けていましたね。あときにはそれは全くの謎でした。Y君の音に対する敏感さが分かっていると、滑り台を滑り降りてくる子どもの勢いや、走ってくる車のエネルギーな姿や音にこの子は魅せられていたのではないかと思うようになりました。

M あのと私にはそこまで分からなかった。行動は目に見えていたけれど、子どもが何を聞いて

どう感じていたかというところまで、想像することができなかった。そこまで分かっていたら、私の保育も変わっていたでしょうね。

F それはちがいますよ！

その子どもの気持ちを分かつようとして一緒にいるときには、その子に対する愛情や同情があつて見ているのだから、同じにただ黙って見ているようでも、関係が違ふでしょう。このことは何でもないように見て大事なことだと思う。自分の枠から出ないで見ていたり、高いところから見ているだけではない。自分の枠から出させるのは、本当の意味の相手の内面に対する理解、すなわち愛だと思ひます。

幼い時の出来事に立ち戻つて

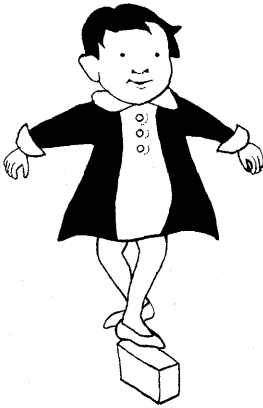
M Y君はこの日、突然に造形教室の途中で帰ってしまったので、その日この人に何が起つたの

か尋ねてみようと、夕方、あなたはお母さんに電話をしましたね。そのときのことを話して下さい。

F 電話口で直ちに、お母さんは、帰りによその展覧会に立ち寄って楽しんで帰ったことを話されました。

M それはよかったね。Y君も怒って帰ったのではなかったのですね。

F 私が今日の出来事を話すと、お母さんはすぐに二歳の頃のことを話されました。二歳の頃のY



君はとても音に敏感で、玄関の鍵を開ける音に遠くから気付いたり、戸外の工事の音で目を覚ましたりしたと言います。そして言葉を話さないことや、指差しをしないことなどで、障害があるのではと考えたそうです。でも、玩具を狭い隙間に入れて取り出したり、遊びはよくしていたので、そんなに重く考えなかったと言います。

M そのころのことはともかく、今はこのお母さんはY君が生きやすい場を作ることに一生懸命です。自分の子どもだけでなく、周りにいる人たちにとっても良い場所になるようにと工夫しながらやっているから、話が積極的で気持ちがいい。

F ああ、それがよかったのですね。Y君が怒って帰ってしまった時も、せっかく出てきたのだからと、よその展覧会に立ち寄って楽しんで帰ったそうです。

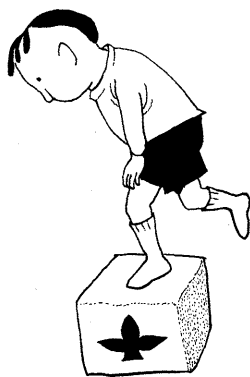
M 小さい時の話も、ちっとも愚痴っぽくなくて

淡々と話してくれました。

幼児期に何を育てるのか

F 今月は我が家でやっている造形教室の時、聴覚が特に敏感と思われるY君の事件があつて、幼児期の生きにくさの一つに子どもにとって何だから分からないような音や振動に対する恐れがあるのではないかと思いました。

またうちの孫のことで恐縮ですが、先日、家中から外を見ていたら選挙の車が通つたのです。薄暗い中を大きな声で候補者が名前を言いながら通るのをこの子が見たのは初めてだったのです。戸惑うような顔で母親と私の顔を見て、作り笑いのような変な表情をしたのです。母親が「あら、泣いているの」と尋ねました。「あれは選挙つていうものなの」と言う母親の説明を膝の上で聞いて、安心したようにまた遊びはじめました。



M その話を聞くと、この子が泣こうか、笑おうか迷っていたのが、母親の顔を見て、言葉を聞いて安心したのだと思う。

幼い子どもは初めてのことに会うことが多いでしょうが、そのことが子ども自身にとって良いことか、恐いことが分からない、その時子ども判断のもとになるのは周りの大人な態度ですね。世界とどうかかわってゆくかを、大人から学ぶのですね。

F その時子どもが大人に信頼感を持っているか

どうかで、学び方が違うのではないかと思えます。信頼するに足るという思いがあれば、まっすぐに受け取られるでしょう。

それは障碍を持つ子どもだけでなく、どの子にとっても大切なことです。

解釈について再び

M ここに述べたY君のように、大声を出して飛び上がった、自分を叩いたりして他の人から怖がられるようなとき、この子に何が起こっているかを察する余裕がなく反応してしまいます。それはある程度しかたのないことですが、子どもに何が聞こえているのかを注意してみることが必要だと思えます。見ただけでは分からないことを察する想像力です。詩的感觉と言ってもよいでしょう。つまり豊かな感性をもって観察することです。それも修練ですね。

F 以前ある母親が、子どもが変な行動をしてそれをどうしても理解できないと訴えたことがありました。私がそのときこの子は特別に敏感な感覚を持っていて私たちは分からないことを感じているのではないかしらと言った。そうしたらその母親は、「ただ変なことをすると見るのではなく、この子はデリケートだと考えることによってずっと落ち着いて見ていられるようになった」と言いました。解釈の時に大人が先入観を捨てるとか、自分の枠から出て考えるというのに通じることではないでしょうか。